市政情報
求人・募集 案内・催し
スポーツ 発表・鑑賞
ごみ カレンダー
公民館
セミナー 健康
相談の案内
高齢者 福祉
中央図書館
子育て
コラム
フォト ニュース

おとなも子どもも
食と育つ
保健センター
☎(758)4721

レシピ 保健センター栄養士

●材料（２人分）

水菜	100㌘（約１/２把）
長芋	150㌘
卵	１個
乾燥桜エビ	10㌘
小麦粉	大さじ４
塩	ひとつまみ
サラダ油	小さじ１

※ソース（小さじ１）と青のり・かつお節（適量）はお好みで

熱量（１人分）：215㌔㌍、塩分：1.0㌘

●作り方

❶水菜は２㌢の長さに切る。長芋は皮をむいて、すりおろす。
❷ボウルに卵を割りほぐし、乾燥桜エビ、小麦粉、塩と①を混ぜ合わせる。
❸フライパンに油をしき、温まったら②を入れる。
❹焼き色がついたら裏返し、ふたをして約３分間蒸し焼きにする。
❺お好みでソースを塗り、青のりとかつお節を散らす。

水菜と桜エビのお好み焼き
家庭の味をアレンジ

消費生活センターだより
消費生活センター
☎(740)1167

賃貸住宅の退去時トラブル！

高額な修繕代を請求された！
「原状回復ガイドライン」を参考に解決を

事例　６年前に入居した賃貸マンションを退去した。家主から「畳と壁紙が古くなって汚れているので、畳を替えて壁紙を張り替える。その費用が20万円かかる。敷金は全く返金できない」と言われた。日ごろからきちんと掃除をしていたし、煙草も吸わないし、ペットも飼っていなかった。納得できない。（40歳代　女性）

賃貸住宅を退去する時、借り主は住宅を原状に回復して明け渡す原状回復義務があります。例えば、煙草のヤニや臭い、ペットがつけた傷、子どもの落書き、不注意で破ってしまった障子、掃除や手入れを怠って生えてしまったカビなどの修繕費用は借り主が負担しなければいけません。しかし、新築のような状態に戻す費用まで貸し主から請求されたという相談が多く寄せられます。このため原状回復の費用負担については国土交通省が一般的な基準を「ガイドライン」に示しています。「社会通念上、通常に使用していれば、使用開始時の状態より悪くなっていてもそのまま貸し主に返還すればよい」との裁判所の考え方に準じています。

事例の場合、６年経てば畳や壁紙が古くなるのは当然です。通常の使用で発生した畳や壁紙の日焼け、色あせなどの修復は貸し主の負担と考えられると説明し、貸し主とよく話し合うようアドバイスしました。トラブル防止のために、入居時と退去時に借り主と貸し主の両方が同席して汚れや傷などをチェックし、修繕費用の負担について確認しておきましょう。写真を撮ったり、確認書面にしたりして残しておくことも大切です。困った時は消費生活センターにご相談ください。

人権啓発シリーズ
生きる
人権推進室
☎(740)1150

戸籍上は男性の、女性弁護士？

「性同一性障害」や「LGBT」
コラムを通じて等身大の姿を紹介

ごきげんよう。今回からこのコラムを担当します、弁護士の仲岡しゅんです。よろしくお付き合いくださいね。

さて、私の「仲岡しゅん」という名前を見て、男女どちらというイメージを持ったでしょうか。日ごろ、名刺を渡すと、「ひらがなですか。変わったお名前ですね」とよく言われます。

実は、私の本名は漢字表記で「駿」なのですが、あえて中性的な印象になるよう、「しゅん」というひらがな表記にしています。というのも、私は戸籍上男性なのですが、弁護士登録上は女性。どういうことかというと、いわゆる性同一性障害という診断がある場合、日本弁護士連合会の判断により、本人の望みの性で弁護士登録ができることになっているんです。

そう、近頃テレビや新聞などでよく目にしませんか。「性同一性障害」や「LGBT」という言葉。私もその一人といわれています。私のように、男性として生まれてきたけれど、女性として生きている人。あるいはその逆の人や、どちらでもない人。そういった人々が、この社会には存在しています。

では、皆さん、私のような人について、どういう印象を持っているでしょうか。「オネェで面白い」と思う人、あるいは「気持ち悪い」と思う人、はたまた「かわいそう」と思う人、さまざまなイメージがあるのではないかと思います。これからこのコラムを通じて、「戸籍上は男性の女性弁護士」としての等身大の姿を、そしてまた、それに関連するさまざまな差別や人権の問題についてお届けできたらと思います。

（なにわばし国際合同法律事務所　弁護士　仲岡しゅん）

【人権標語入賞作品「やめようよ　君が言わなきゃ　誰が言う」中学校３年】

市立川西病院の今
市立川西病院
☎(794)2321

副院長　土居貞幸

Endoscope
外科の技術力で患者を第一に考えた治療

腹腔鏡を使った手術など
負担の小さい治療を推進

「外科は手術治療が必要な患者さんを中心に治療を行っているところです。手術治療の場合、患者さんのために、手術後のことも視野に入れた治療をしていかなければなりません」

そう話すのは、土居貞幸副院長です。

市立川西病院の外科では、胃や大腸の消化管と肝臓、胆のう、膵臓（すい）などの消化器疾患、乳腺などの内分泌疾患に対して治療を実施。負担の少ない腹腔鏡下手術など、病状に合わせて手術を施します。

腹腔鏡とは、体の中を見る内視鏡のこと。腹腔鏡下手術はお腹に１㌢ほどの小さな穴を４～５カ所開け、管を通し、腹腔鏡のカメラでお腹の中を画面に映しながら器具などを挿入して手術を進めます。

大腸がんや胃がんといった、消化器系の病気などの治療で広く用いる手術。以前は、傷口が大きくても、手術時間が短い開腹手術が主流だったと土居医師は話します。

「川西病院では、手術後のことも考えた治療を進めているんです。病状に合えば、患者さんにとって身体的な負担が少ない腹腔鏡下手術の方が良く、当院では積極的に手術方法として採用しています」

開腹手術に比べると時間がかかりますが、傷口が小さいという特徴があります。傷口が小さいということは、その分治りも早いため、退院や社会復帰までの期間も短くなります。

「最近では麻酔の技術も発達しているため、手術後の痛みもかなり少ないですよ。腹腔鏡下手術では、痛みで目が覚めるということはほとんどありません」

この手術は、特別な技術を必要とする手術です。しかし、同病院に在籍する外科医のほとんどが施術することができます。

「医師の技術力が高いこと。それが当院の特長です。大学病院と同じ技術の治療が受けられるといっても過言ではないと自負しています。地域で高度な治療が受けられるというのは、一つのメリットですよね。また、総合病院であることを生かして、定期的に外科と内科で合同のカンファレンスを開き、治療方針を検討しています。日ごろから連携がしっかりしていれば、対応も早くなり、治療にも役立ちます。今後も、患者さんのことを第一に考えた治療を推進していきたいと思います」